

CAJ NEWS



Communication Association of Japan Newsletter

日本コミュニケーション学会ニュースレター

創立昭和46年
(Founded 1971)



“猫天神”

photo by Aya Kubota (中部支部)

CONTENTS

109
2015.6

1. 巻頭言 年次大会実行委員長挨拶 1	7. 会員著書紹介11
2. 2014年度 第2回理事会報告 2	8. 支部ニュース：12
3. 学術局報告： 5	北海道支部12
第45回年次大会について 5	東北支部12
学会誌に関するお知らせ 5	関東支部13
2014年度ジャーナル掲載論文 6	中部支部13
お詫びと訂正 (学会誌) 7	関西支部13
学会賞に関するお知らせ 7	中国・四国支部14
4. 事務局報告 8	九州支部14
5. 広報局便り10	9. メールアドレス登録のお願い16
6. 会員消息 (川島彪秀先生瑞宝章受賞)11	10. 編集後記16

巻頭言

第45回年次大会の成功にむけて

年次大会実行委員長 森泉 哲 (南山大学短期大学部)



第45回年次大会を南山大学名古屋キャンパスで開催することとなりました。6月の名古屋は蒸し暑くなっており、本学は丘の上にありますので、すぐに汗ばんでしまうかと思えます。しかしその熱気をアカデミックな議論への熱にうまく転換していただき、会員の方々に参加してよかったと思って頂けるような大会になればと願っております。

今年度より私は副学術局長(年次大会担当)に就任し、実行委員長も兼任しながらこれまで準備を進めて参りました。今まで年次大会には参加する側としての経験しかなく、年次大会企画・実施には経験豊富な先生方のご教示をいただきながらこれまで進めて参りました。その中で実感するのは、これまで運営されてきた先生方は本当に献身的に大会準備をされてきたのだなということでした。私自身こんな大役を引き受けてしまって大丈夫だろうかと心配にもなりますが、年次大会は会員の先生方の日頃の学究の成果をご発表いただく機会でもありますし、会員間での学問的交流を促す場でもありますので、その一端に運営側として貢献できることは大変光栄に感じております。

今大会のテーマは「コミュニケーションとジャーナリズム」です。大会を通して、情報コミュニケーション機器の発展と共に複雑化するコミュニケーションとマスコミュニケーションのあり方について検討する機会になればと願っています。この数か月でも、朝日新聞の報道のあり方をめぐる議論やフランスの週刊誌シャルリエブドの風刺画が発端となった事件を通して、報道倫理や受信側と発信側の意図や解釈のズレというコミュニケーション学の中なかでも中心となる話題に注目が集まりました。本大会の学術講演では朝日新聞の慰安婦報道を検証する第3者委員会のメンバーでもあった林香里先生をお招きして、「『ジャーナリズムの危機』とコミュニケーション」という演題でお話しいただくのはとても時宜を得たものであると思います。講演後、シンポジウムにて五島会長の司会の下、青沼智先生と日高勝之先生を加えてジャーナリズムをコミュニケーションの観点からさらに議論いただけることも大変楽しみです。本講演ならびにシンポジウムは無料で一般公開される予定ですので、会員外の方々にもぜひ足を運んでいただきたいと思います。

今大会も様々な企画があります。例えば、例年通り学術局企画によるジャーナルに関するセッションもありますし、コミュニケーション教育研究会やレトリック研究会のセッションも興味深い企画がなされています。さらに、企画理事と学術局で日本のコミュニケーション学の先駆者の方にインタビューを通してオーラル・ヒストリーを記録する企画も立案しています。現在本学会の歴史についてどう記録に残し後世に伝えていくのかということが理事会の中なかでもたびたび話題にあがっておりますので、今後もこの企画は継続していけるとよいと願っています。

懇親会も参加者の皆様には楽しみの一つであることと思います。できるだけ多くの名古屋めしを堪能していただけるように計画中です。ぜひ、えびふりゃー(名古屋弁ではないようですが)、味噌カツ、手羽先などを味わっていただきながら、会員同士の交流を深めていただければと思います。至らぬ点が多々あるかもしれませんが、多くの皆様から参加してよかったと思っていただけるような大会を目指してスタッフ一同全力で取り組んで参ります。例年以上に多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

2014 年度 第 2 回理事会報告

日 時：2014 年 3 月 28 日 (土) 13 時～17 時

会 場：関西大学東京センター (東京駅前サピアタワー 9 階)

出席者：五島、青沼、守崎、清宮、高井、鳥越、吉武、坂井、野中、森泉、高永、小山、今井、丸山、宮原、長谷川、川内、綾部、藤巻、ライネルト、伊佐 (21 名)

欠席連絡：森口

【報告事項】

【1】会長挨拶

五島会長から 2014 年度第 2 回理事会の開催の挨拶があった。

【2】各局および担当理事報告

1.各局

(1)事務局

①入退会者および会費納入報告

高井副事務局長から最新の会員状況の報告があり、新入会者および退会者の報告があった (別紙参照)

②旅費の振込み予定時期に関して

鳥越副事務局長から理事会出席やその他公務に基づく費用の振込みを今年度中行うと報告があった

③その他

清宮事務局長から学会誌の電子化 (PDF) について報告があった。上野印刷が担当。

(2)広報局

①ニュースレター108号の発行と109号の予定

小山副広報局長から 108 号が 2 月に発行されたことの報告があった。109 号は大会直前に発行する。NL 電子化について特に反応はないが、各支部長経由で会員のフィードバックを求めた。②他学会への年次大会案内の送付についてメールにて大会案内を関連する 11 学会に送付した (別紙参照)

③第 45 回年次大会の広告・展示ブース出展企業について

高永広報局長からプログラム広告希望企業 3 社 (A4 半ページ)、展示ブース希望は 4 社 (初日 4 社、2 日目 2 社) あつたとの報告があった。案内は 25 社に送った。

④Web 関連

今井副広報局長から年次大会のアップデートを随時行っていることの報告があった。

⑤その他

事務局に対して、大会において広告・ブース掲載・展示の企業にお礼状を送付願いたい。鳥越副事務局長が担当する。

(3)学術局

①ジャーナル関連

坂井副学術局長から第 44 巻 1 号の発行準備状況、投稿状況、2 号の投稿論文募集について報告があった。再投稿論文についての現状と、それに伴うクレームの対応の報告があった。

②第 45 回年次大会関連

審議事項として扱う。

③その他

吉武学術局長から、学会賞の応募が 4 件、そのうち 3 本が審査対象であったと報告があった。論文賞は 2 件が対象。

2.各担当理事

(1)研究会

藤巻支部長からレトリック研究会は中部支部と合同で12月に研究会を行ったとの報告があった。また、ウェブページもアップデートし、岡部朗一先生の蔵書を立教大学に移設した（立教大学の予算を用いて）。

(2)海外渉外

宮原渉外担当理事からICA大会準備の報告があった。

(3)企画

丸山企画担当理事からJames Bowers先生の退官記念の企画の報告があった。

【3】支部報告

1. 北海道

長谷川支部長から3月7日に北海道支部、JACET北海道、HELESとの合同研究会が実施され、5月に支部ニュースレターの発行したとの報告があった。また、支部の事務局を開設するため動いているが、規約がないと銀行口座が開設できず、現在対応を模索中。

2. 東北

川内支部長から定例研究会が2月28日に実施された旨報告があった。また2月に支部ニュースレターを発行した。11月28日に支部大会を実施する。

3. 関東

綾部支部長から、3月20日に定例研究会が開催されたとの報告があった。

4. 中部

藤巻支部長から12月20日に支部大会をレトリック研究会と合同で実施し、NLを発行中であるとの報告があった。次回支部大会は12月19日に予定している。

5. 関西

守崎支部長から3月21日に春の支部大会・総会を開催したとの報告があった。

6. 中国・四国

ライネルト支部長から、次回支部大会は12月12日に行うとの予告があった。

7. 九州

伊佐支部長から、ニュースレターの発行についての報告があった。また、支部大会における院生発表の補助金の開設の報告、支部紀要の発行予定、および次回支部大会の予告（10月3日）があった。

【4】その他

1. 五島会長から支部活動費を繰り越さず、各年度で使用するように要望があった。

【審議事項】

【1】海外渉外

1. ICA 大会関連

宮原渉外担当理事から、CAJ 大会は ICA 大会（6月9日-13日）と同時期（6月11日-12日）に開催し、連携はするが共催はしない旨説明があった。CAJ 会員と ICA 会員間の交流を企画する（バスツアーなど）。

2. ICA 加盟関連

高井副事務局長から加盟についての説明があった。規約の英訳が必要であるが、全員一致で加盟することに合意した。

【2】第45回年次大会関係

1. 発表論文・パネルの査読結果

森泉大会担当理事から45回大会に22件の発表申し込みが全て採択され、研究パネル2件も了承された旨報告があった。

2. 年次大会プログラム

森泉大会担当理事から大会プログラム案が提示され、承認された。（別紙参照）

3. 今後の日程

野中学術副局長から以下の項目について説明があった。

- ・プログラム、プロシーディングの印刷（西南キャンパスサポート）・発送は5月上旬までとする
- ・チラシの作成・印刷を行い、理事および地元メディアに配布する

4. 会員からの応募パネルのパネリストの会員資格

森泉大会担当理事からパネル発表者の会員義務についての問い合わせがあったこと報告され、学術局でパネリストは非会員でよいが、企画者は会員であることが必要と提案され、承認された。なお、非会員でもパネリストから大会参加費は原則として徴収する。

【3】各局関係

1. 事務局

① 今年度決算案および次年度予算案について

鳥越副事務局長から2014年度決算案と2015年度予算案が提案され、承認された。

② その他

清宮事務局長から James Bowers 元会長からの CAJ 運営に関する寄贈資料があったことの報告があった。歴史的資料としては価値があるものの、保管料を払うまでの価値があるかの疑問が呈された。引き続き審議することになった。また、CAJ ロゴの一新が提案され、さらに英語名称の変更も検討された。継続審議とすることになった。

2. 広報局

特になし

3. 学術局

坂井編集長からジャーナル再投稿に関するクレームについての対応策が提案された、その内容について議論された。対応文が丁寧すぎ、投稿者に必要以上の情報を与えていることに対する懸念が示されたが、概ね対応案が認められ、承認された。

【4】その他

【5】次回理事会等の開催

6月12日 南山大学L棟9F 910号室 15時-17時

学術局報告

第45回年次大会について

第45回年次大会は、2015年6月13、14日の両日、南山大学（名古屋市）にて開催されます。現在、森泉哲先生（南山大学）を大会実行委員長として順調に準備が進められています。今年のテーマは「コミュニケーションとジャーナリズム」です。

南山大学は地下鉄名城線（名古屋市営地下鉄環状線）で名古屋駅から30分ほどの場所に位置しています。中部国際空港（セントレア）からでも1時間ほどのすばらしいアクセスです。詳しくは大会プログラム、または南山大学ホームページをご参照ください。

13日（土）には東京大学の林香里先生をお迎えして、現在日本が直面しているジャーナリズムの危機を回避するヒントがコミュニケーションにあること、そしてコミュニケーションが今後のジャーナリズムの存続にいかに関与できるかについて講演をしていただきます。その後、公開シンポジウムを開催いたします。林先生には引き続きシンポジストとして加わっていただき、青沼智先生（津田塾大学）、日高勝之先生（立命館大学）、そして五島CAJ会長とともに、コミュニケーションとジャーナリズムが持つ課題と今後のあり方について語っていただきます。

2日目にはコミュニケーション教育、レトリックの両研究会によるパネルディスカッションが行われます。また、日本のコミュニケーション学の黎明期を支えた先人たちから直接話を伺うオーラルヒストリー企画を新たに設定いたしました。私たちのCAJが産声を上げた40数年前の苦勞を知る研究者にお話を伺いながら、本学会の歴史を改めて振り返ります。

懇親会は南山大学教職員食堂で行います。名古屋めしを堪能しながら、年に一度の研究者の集いを通して新たな出会いと再会を楽しみましょう。

年次大会へはオンラインで参加申し込みいただけます。CAJのホームページから年次大会の申し込みサイトに進んでいただき、手続きを完了してください。大会への参加登録だけでなく、懇親会、お弁当についてもお申し込みいただけます。また宿泊についてもこのサイトからご予約いただけます。なお、オンライン申し込みは、今年もトップツアー株式会社によって運営されています。

申し込みの際、会員番号を入力する欄があります。会員番号は学会から送られるジャーナルなどの郵便物の宛名の一部に記載されています。大会登録の際にはこの番号をご参照ください。今年度よりニュースレターが電子版となったことにより、学会からの郵送物は減っております。皆様の会員番号を今一度ご確認ください、記録しておかれますことをお勧めいたします。

最後に、今年度の研究発表の応募状況についてご報告いたします。2014年2月20日の締め切り時点で個人論文22件、パネルについては2つの研究会からそれぞれ1件、そして学術局からの企画が2件の応募がありました。5人の査読者の評価を基に、これら全てを採択し、理事会で承認されました。ご応募いただき、まことにありがとうございます。

（学術局年次大会担当理事 野中昭彦）

学会誌に関するお知らせ

『日本コミュニケーション研究』(Japanese Journal of Communication Studies)の第43巻2号を無事に発行することができました。すでに会員の皆様のお手元に届いていることと思います。今回の学会誌には2本の研究論文と2014年度年次大会での基調講演者のダグラス・ラミス氏の論考が掲載されております。

現在は、第44巻1号の締め切りが1月末に終了し、7本の論文(内1本は再審査希望論文)が投稿されました。こちらは11月末の発行を目指し、査読作業が順調に進められ審査結果の取りまとめが現在行われています。また、第44巻2号(2016年5月末発行予定)への投稿論文を募集中です。締め切りは7月末日ですので是非皆様の研究結果を論文としてご投稿ください。投稿方法は、ワード等で作成されたファイルを指定メールアドレスに添付して送付してください。送付の際には、(1)「論文」、(2)「シノプシス」、(3)「ファイル作成に使用した機種を加えた著者情報」、以上3つのファイルを添付してください。執筆・投稿の詳細は、公式ホームページにある「研究論文集投稿規程」「学会誌執筆要項」を参照してください。

送付の際、ジャーナル専用アドレスに加え、編集委員長のメールアドレスにも「CC:」にて送付してください。メールアドレスは以下の通りです。

To: journal(@を代入)caj1971.com

CC: vanas(@を代入)yel.m-net.jne.p

上述したメール投稿で受領の返信がない等の不具合、また、ジャーナル投稿に関するその他のお問い合わせは、ジャーナル担当の坂井(vanas@yel.m-net.ne.jp)までご連絡下さい。迅速に対応いたします。

学会ジャーナルは年次大会とともに学会の大きな柱です。現在は、発行も年2回となり投稿締め切り日も1月末と7月末の半年ごとのシステムとなっています。また再査読システムの導入により論文の再投稿も可能となっています。そういったジャーナル改革にも関わらず論文投稿数は伸び悩んでいるのが現状です。そのためこの6月の年次大会では学術局セッションとして『本学会ジャーナル「日本コミュニケーション研究」の未来を語りあう』と題しパネルディスカッションを行います。本学会ジャーナルの未来を共有し今後の方向性を皆様とともに共創する場としたいと思っております。お時間があればぜひご参加ください。

(副学術局長:ジャーナル担当 坂井二郎)

2014年度ジャーナル 『日本コミュニケーション研究』掲載論文

『日本コミュニケーション研究』第43号 第1号(平成26年)

研究論文:

島田拓司、カール・タムリング、高井次郎「弁明プロセスの日常体験—弁明行為とその効果—」

花木亨「アメリカン・ドリームの物語—コミュニケーション研究における五つの語られ方—」

花木亨「バラク・オバマは医療を語る—2009年9月9日アメリカ合衆国議会合同会議における演説をめぐる考察—」

『日本コミュニケーション研究』第43号 第2号(平成26年)

特別企画:

ダグラス・ラミス「コミュニケーション論から見た日本国憲法と自民党の『日本国憲法改正草案』」

研究論文:

花木亨「バラク・オバマは銃規制を語る—銃を持つ自由と暴力からの自由—」

塙幸枝「映画における障害表象—コミュニケーションの問題として描写される障害—」

お詫びと訂正 (学会誌『日本コミュニケーション研究』)

『日本コミュニケーション研究』第43巻第2号の著者の1人であるダグラス・ラミス氏の所属先に誤記載がありました。「沖縄キリスト教学院大学大学院」が正確な所属先名です。誤記載に関し、ダグラス・ラミス氏に深くお詫び申し上げます。

学会賞に関するお知らせ

2015年3月9日に本年度の学会賞への応募を締め切り、これまでにない多数のご応募をいただきました。現在、「書籍の部(研究書の部)」2件、「書籍の部(教科書・啓蒙書の部)」1件、「論文の部」2件について審査をおこなっています。審査結果の発表および受賞者の表彰は、6月13日の年次大会総会でおこないます。

事務局報告

事務局からのご報告とお願い

1. 2014年度年会費の請求について

2015年度の年会費は7月中旬頃に請求させていただきます。

2. 会費滞納による除名とジャーナル受け取りの権利について

本年6月13日に開催される理事会までに2012年度、2013年度、2014年度の会費が全て未納の場合には、会則第12条内規に従い、特別な理由がない限り除名させていただきます。また会則第8条内規に従い、2014年度の会費が未納の場合（2014年度入会者は除く）にはジャーナルをお送りすることができませんのでご了承ください。

3. 会費残高の確認について

学会ホームページの「会員各種手続き」→「会員登録情報変更手続き」のページにて、会費の残高（未納金額）をご確認いただけます。振込用紙を紛失された方は、郵便局に備え付けの用紙をご利用いただくこともできます。残高をご確認の上、下記の郵便振替口座にお振込みください。

郵便振替口座番号：00190-0-721181

加入者名：日本コミュニケーション学会

4. 学生会員・準会員登録申請について

大学院生対象の学生会員、学部生対象の準会員として登録するには、登録申請が毎年必要です。既会員の申請期限は7月末日です。申請書のフォームは学会ホームページの「会員各種手続き」よりダウンロードし、学生証等のコピーを添付して郵送で学会支援機構までお送りください。

5. 会員情報変更の際の届のお願い

入会された時点と所属や住所、またはメールアドレスに変更がある方が多くいらっしゃいます。会員情報を更新するため、年次大会プログラムに同封されている総会の出欠ハガキの通信欄をご利用いただき、変更のあった方はお手数ですが最新情報を必ず記入の上ご返送ください。今後CAJからのいろいろな情報が、メールによって配信される予定です。メールアドレスの変更の際は、忘れずにご連絡ください。

6. 学会発刊物の購入申し込みと閲覧、複写申し込みについて

ジャーナルのバックナンバー、記念論文集、大会プロシーディングズ等学会発刊物をお求めになりたい場合、学会支援機構にお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。なお、ジャーナル、記念論文集については、国立情報学研究所の論文情報ナビゲーターCiNii (<http://ci.nii.ac.jp/>) に、著者により公開可とされた論文が掲載されており、閲覧、印刷することができますので、こちらも是非ご利用ください。同サービスを利用せず、複写をご希望の場合は、学会支援機構までお問い合わせください。

7. 新規会員の手続き

CAJでは、新しい学会会員を随時受け付けています。前号のニューズレターでも紹介しましたが、入会しやすいシステムに移行するため、以下のような流れ形で、新規会員の手続きを行います。とくに、会費納入について迅速に確認するため、新規の申込者には、会計担当理事にメールにて会費の振込した日をお知らせいただくようお願いすることにいたしました。その上でCAJ事務局から申込者と所属支部長に、会員登録の完了を連絡するようにいたします。ご不明な点がございましたら、事務局までご連絡ください。皆様のご協力をお願い申し上げます。



2014年度決算／2015年度予算案

年次大会の総会で諮る決算書案および予算書案について審議を行った。ICA (International Communication Association) の affiliate 登録の費用および CAJ のロゴデザイン費用を予算項目として追加することが承認された。

広報局便り

1. 第45回年次大会の広報局活動

広報局では、プログラム広告と大会当日の書籍展示のご協力を呼びかけました。今年は、以下の企業様からのご協力を得ました。心からお礼申し上げます。

① プログラム広告へのご協力企業様（受付順）

京都書房、有斐閣、キャンパスサポート西南

② 書籍展示ご予約企業様

アサノブックス、京都書房、三修社、ピアソン・ジャパン、くろしお出版

多くの参加会員の皆様に、出展ブースへのお立ち寄りをお願いいたします。

2. ホームページについて

トップページに学会誌「日本コミュニケーション研究」(第44巻2号)投稿案内を掲載しました(掲載日3月30日)。引き続きニュースレターはホームページへの掲載のみとなります。

ホームページなどに関して、ご意見やご提言があれば、広報局まで、お気軽にご連絡をお願いいたします。また、多くの情報を CAJ ホームページ (<http://www.caj1971.com>) に掲載していますので、ぜひご覧ください。

(広報局長 高永茂)

CAJ ニュースレターへのご寄稿のお願い

日本コミュニケーション学会では、ニュースレターへの会員の皆様のご寄稿を募集しております。以下の要領で奮ってご寄稿ください。

① 著書紹介

会員の皆様の著書を紹介するコーナーです。自薦、他薦を問わず、会員の皆様の著書をご紹介ください。和文で 250~500 字程度の原稿を受け付けております。

② コラム：コミュニケーション教育

コミュニケーション教育に関する実践報告、事例紹介、展望、論考、その他のエッセイを受け付けています。和文で 1000~1500 字程度の原稿を受け付けております。

③ 書評 / 教科書(テキスト)紹介

コミュニケーションおよび関連領域の著書に関する書評、および、コミュニケーション関連の教科書(テキスト)等の紹介を受け付けております。和文で 1000~1500 字程度の原稿を受け付けております。

④ NL 表紙の写真

ニュースレターの表紙を飾る写真を募集しております。本学会の NL 表紙に相応しい写真がございましたら是非お寄せください。(写真は、会員の皆様ご自身でお撮りになったもの、または著作権をお持ちの写真に限ります。また、写真内容が法令に触れないようご配慮ください。)

会員消息

過日、平成27年春の叙勲受章者が発表されました。

既にご存知の皆様も多いと思いますが、CAJ創始者である川島彪秀先生が瑞宝章を受章されました。日本コミュニケーション学会として、受章をお慶び申し上げ、その顕著な御功績と御功勞に対し深甚の謝意を表したいと思っております。

瑞宝小綬章（教育研究功勞）

川島彪秀 先生 CAJ初代会長(1971～1981) 日本大学名誉教授

ご受章、まことにおめでとうございました。

(なお、次号NL110号にて川島先生の御功績について詳しく触れた特集記事の掲載を予定しております)

会員著書紹介

大崎正瑠 『日本人の異文化コミュニケーション』

DTP 出版 (2015 年) 四六版 210 頁 / 1800 円 + 税 (Amazon 可)

<目次>第1章：日本人の異文化コミュニケーションを妨げるもの 第1節：地理的理由＝ユーラシア大陸と日本 / 第2章：日本人特有のコミュニケーション方法 第1節：武家社会の影響（以下略） / 第3章：解決の試み＝突破口を開く 第1節：異文化体験により何が学べるか 第2節：外国語を学ぶということ 第3節：世界の中の日本語＝世界に日本語を広める / 第4章：人間関係から解く異文化コミュニケーション＝日韓 / 第5章：人間関係から解く異文化コミュニケーション＝日中

著者の50年間、50回以上、約50カ国・地域への渡航・滞在の豊富な経験から醸し出された独自の「日本人のための異文化コミュニケーション論」。渡航形態も留学、バックパッカー、旅行者、ビジネスマン、学生引率者、客員研究員、調査研究、交換教授、国際学会参加など多様。著者は、体験を通じて、コミュニケーション方法は、イベリア半島から朝鮮半島までユーラシア大陸の国々の差より朝鮮半島と日本の差の方が大きいことを突き止める。中国人・韓国人は、ユーラシア大陸人であり、日本人は非ユーラシア大陸人である。北米などは、元々移民が多くユーラシア大陸の延長と考える。日本人の異文化コミュニケーション下手の原因を明らかにし、その対策を提案する。このような視点と発想は、これまでになかったものであろう。本書は、昨年11月1日に著者が一橋大学の大学祭に招かれ講演した内容に基づくもの。著者は元会員（元局長）。

紹介者：近江誠（元会長）

支 部 ニ ュ ー ス

北海道支部

(支部長 長谷川 聡)

CAJ北海道支部では、2015年3月7日(土) 藤女子大学北16条キャンパスにおいて、初の試みとなるHELES(北海道英語教育学会) およびJACET(大学英語教育学会) 北海道支部との3学会合同研究会を開催しました。

「Communication for Specific Purposes (CSP) (特定目的のコミュニケーション)」という大会テーマの下、5件の研究発表と合同ティーチンが行われ、外国語教育、生涯学習、福祉医療と多彩な分野におけるコミュニケーションについて、35名の参加者の間で活発な議論が交わされました。研究会、懇親会とも盛会のうちに終了し、北海道エリアにおける学会間の今後の連携に向けて、期待が高まる結果となりました。



今後の活動予定としては、2015年7月7日(火)に支部総会および支部研究会、同年11月7日(土)には支部研究大会を、藤女子大学北16条キャンパスにて開催します。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

なお、現在北海道支部では会則の作成に向けた討議を行っています。支部の適正かつ円滑な運営、そして研究と研究教育の活性化に向けて準備を進めて参りますので、引き続きご支援の程よろしくお願い致します。

東北支部

(支部長 川内 規会)

活動報告

1. ニュースレター第24号の発行(2015年2月)
2. 支部HP支部ホームページの更新
<http://www.caj1971.com/~tohoku/news.html>
(皆様、ぜひ一度ご覧ください。)

3. 2014年度東北支部定例研究会の開催
(2015年2月28日、仙台市、出席者14名)

【研究発表4件】

- ・『『国際文化』の名を冠する大学プログラムにおける『コミュニケーション(学・教育)』の可能性』小林葉子(岩手大学)
- ・「グループ・ディスカッションにおける日本人とタイ人の行為指示型表現の違い」青木アタヤ(宮城学院女子大学)
- ・「老人ホームでのフィールドワークで考えた施設という空間の意味」五十嵐紀子(新潟医療福祉大学)
- ・「言語コミュニケーション能力の評価：コモンルーブリックの理論的背景と活用の現況」石橋嘉一(青森中央学院大学)、松田岳士(島根大学)、中山実(東京工業大学)



【コミュニケーション科目の授業実践報告会】

日常の授業実践の「情報共有」として、講義内容、使用テキストやプリントなどの情報交換等を行いました。2グループに分け気軽に話し合う場とし、各自持

参の資料等を活用しながら意見交換しました。初めての試みでしたが活発に話し合いが行われ、今後に向けてさらなる発展の可能性を残して終わったように感じています。



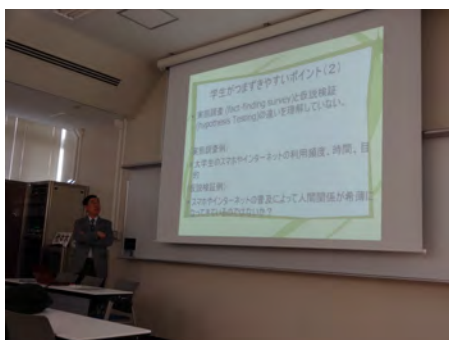
今後の活動予定

1. 2015年6月13日(土) 年次大会時に支部総会を開催
2. ニュースレター第25号の発行
3. 2015年11月28日(土) 第16回CAJ東北支部研究大会(岩手、アイーナ)の開催
4. HPの随時更新
<http://www.caj1971.com/~tohoku/>

関東支部

(支部長 綾部 功)

関東支部では3月21日(土)に東海大学代々木校舎で定例研究会を開催しました。津田塾大学から中西雅之先生と二松學舎大学から松本健太郎先生をお招きし、「ゼミなのでの研究方法(リサーチメソッド)の指導について」をテーマに発表をさせていただきました。



なお、6月1日より小西卓三先生(昭和女子大学)支部長による新体制で運営してまいります。これからもご支援いただけますようよろしくお願いいたします。

中部支部

(支部長 藤巻 光浩)

1. 中部支部のニューズレターが完成しました(<http://www.caj1971.com/~chubu/newsletter.html>)。装いも新たになり盛りだくさんです。まず、昨年12月に開催された支部大会の報告が非常に充実しております。また、恒例の書評ですが、日本語と英語のものを合わせて、計10本あります。ここから、何らかの議論が始まればと思っております。
2. 今年度の中部支部大会は、12月19日(土)を予定しております。シティズンシップ教育とコミュニケーションをテーマに、基調講演も含め充実の大会になる予定です。場所は、愛知淑徳大学星が丘キャンパスです。みなさんと名古屋でお会いできればと思います。
3. 今年の年次大会は、ご存じの通り、南山大学で行われます。支部としては、全力でサポートをしたいと思っております。もちろん、懇親会の名古屋めしもご期待ください。名古屋でお待ちしております。

関西支部

(支部長 守崎 誠一)

3月21日(土)に、京都ノートルダム女子大学(ユージニア館 4F E401 教室)で2014年度第13回CAJ関西支部大会が開催されました。今回の大会参加者は11名、懇親会への参加者は7名で、活発な議論をとまなう充実した集まりになりました。

まず、支部総会において、2014年度事業報告および

決算報告、2015年度事業計画と予算案について、それぞれ審議・承認されました。

次に、関西支部長の守崎誠一が、「いま求められる『コミュニケーション能力とは?』:何をどのように教育していけばいいのか」をテーマに話題提供としての講演をおこない、その後、フロアーも交えた活発な議論がおこなわれました。

引き続き、以下の2つの研究発表がありました。(1)後藤忠厚・北本晃治(帝塚山大学)「宗教と科学に起因するコミュニケーション上の根源的『違和感』を考える」、(2)小山哲春(京都ノートルダム女子大学)「コミュニケーション教育における理論習得の役割:実践的スキルの礎としてのコミュニケーション理解」。いずれも、発表後にフロアーとの活発な質疑応答がおこなわれました。



【支部長守崎先生ご講演】

支部大会終了後は、京都市営地下鉄北山駅近くにあるイタリアンレストラン「IN THE GREEN」に場所を移して懇親会が開かれました。大会の余韻の残る中、活発に意見交換も行われ、有意義な楽しい交流会となりました。

中国・四国支部

(支部長 Rudolf Reinelt)

2015年度の中国・四国支部大会は、12月12日(土曜日)に福山大学・宮地茂記念館で開催します。今回のテーマは「リメディアル教育」です。「コミュニケーションを大切にした学校教育」というシンポジウムも企画しています。島根大学教育学部の大谷みどり先

生にご講演いただいた後、議論を深めていきたいと考えています。会場の場所と大谷先生のご講演の概要は下記のようになっております。一般発表の募集も行います。会員の皆さんの参加をお待ちしています。

会場：広島県福山市丸之内1丁目2番40号

学校法人福山大学 宮地茂記念館

<http://web.fukuyama-u.ac.jp/rcosr/kinenkan/kinenkan.html>

(JR 福山駅から歩いて3分ほどの便利な場所にあります)

講演の概要：「小中高校生に見られる英語学習における困り感」

大学でリメディアル教育が重視されてきているが、大学入学前の段階、小中高等学校の英語の時間に、児童・生徒はどのような困り感を持っているのだろうか。小中高教員へのアンケート調査と授業観察をもとに、英語を学ぶ上での子どものつまずき・困り感について、話題を提供する。

九州支部

(支部長 伊佐 雅子)

第22回九州支部大会

今年の第22回支部大会は、10月3日(土)、熊本学園大学水俣学現地研究センター(水俣市)で開催します。大会テーマは「環境問題とコミュニケーション」で、大会委員長は次期支部長の池田理知子先生です。特別講演者に、山下善寛氏(元チッソ第一労組委員長、水俣学研究センター客員研究員、「水俣の暮らしを守るみんなの会」会員)を迎え、「水俣の環境問題と、公害について」(仮)というテーマで、講演をしていただきます。

水俣市は熊本県の最南端に位置し、博多から九州新幹線で約1時間、熊本駅及び鹿児島中央駅からは30分です。また、鹿児島空港からも水俣行きのバスが出ています。水俣病の「ミナマタ」のイメージが強い場所ですが、不知火海を臨むその風景はそれを忘れさせる

ほど美しい。海と山の幸が豊富で、水も食べ物も美味しい。しかし、忘れてはならないのが、公害の残した「負の遺産」です。

今回の支部大会では、水俣湾の埋め立て地や産業廃棄物の埋設問題など、今の水俣の環境問題を水俣病事件との関わりを交えつつ、ゲスト講師に語ってもらい、それが、自分たちの日常とどうつながっているのか、さらに、コミュニケーションの問題とどのように関連するのかを皆で話し合っていきたいと思っています。また、水俣病に関連した施設や土地めぐりも予定しているので、多くの皆様の参加を期待しています。

学会支援機構の連絡先

〒112-0012

東京都文京区大塚 5-3-13 小石川アーバン 4F

一般財団法人 学会支援機構

日本コミュニケーション学会担当

TEL: 03-5981-6011 / Fax: 03-5981-6012

E-mail: office(@をを入れる)asas.or.jp

NL の電子版への完全移行のお知らせと メールアドレス登録のお願い

日本コミュニケーション学会 広報局

日本コミュニケーション学会ニュースレターは永きにわたり紙媒体でお届けして参りましたが、107号より電子版に完全移行いたしました。当面はPDF版をHPに掲載する予定ですが、将来的には学会全体のメーリングリストを構築してのメールマガジンの配信も視野に入れ、さらに検討を続けていきます。つきましては、会員の皆様には、本学会HP（学会支援機構データベース）にてメールアドレスの登録をお願い申し上げます（下記の方法をご覧ください。）今後、NLの配信を含めた学会の広報活動を効率化し、会員の皆様とより情報価値の高いコミュニケーションを取れますよう、ご協力をお願いいたします。

- ① 本学会 HP (<http://www.caj1971.com>) にアクセス
- ② 左側メニュー「会員各種手続き（Membership）」をクリック
- ③ ページ中頃の「各種変更手続き」の下「1 オンラインで Web 登録情報確認・変更、会費残高照会のページ」をクリック
- ④ 会員番号とパスワードを利用してログインし、メールアドレスを登録（変更）して下さい。
 - * ご登録いただきましたメールアドレスは、学会（学生支援機構）が責任を持って管理し、学会からのお知らせの配信（および、これに係るメーリングリストの構築）以外の目的では使用しません。

- 会員番号は、学会からの郵送物の宛名ラベルの中に印字されています（10桁の番号）
- パスワードをお忘れの場合には、上記④の画面で、「パスワードの問い合わせ」をクリックして手続きを行って下さい。

編集後記

NL109号をお届け致します。今号の表紙には、CAJ中部支部の久保田絢先生（愛知淑徳大学）からご提供いただきましたお写真を掲載しております。この場を借りて厚くお礼申し上げます。言語コミュニケーション関連の授業でソシユールの記号論を扱う際、必ず「木」や「犬」といった語が例として用いられますが、そういえば「猫」が引き合いに出されることはあまりないようです。不当な扱いだと憤慨する向きもあろうかと思いますが、「犬」を規定するのは「猫（およびそれ以外）ではない存在」としてであるという、否定的な差異としての記号システムの説明において、「猫」はむしろ非常に重要な役割を担っているとも言えます。その控えめでやや影のある存在感こそが「猫」の真価である、とまで言うとは今度犬派の方々より叱責を頂きそうでもありますが・・・今年梅雨があまり cats and dogs とならぬよう祈りつつ。

多くの皆様と名古屋でお会いできるのを楽しみにしております。

広報局 ニュースレター担当 小山 哲春